報道関係者各位

2024年12月27日
「写真展 能登 復興に向けて」事務局

能登の復興とともに歩む写真展
『写真展 能登 復興へ向けて』開催

稀代のプロデューサー立川直樹が監修。1月7日より東京で開催

「写真展 能登 復興に向けて」事務局は、能登半島地震の復興を一緒に歩んでいく写真展『写真展 能登 復興へ向けて』を、2025年1月7日（火） 東京ミッドタウン八重洲にて開催します。
音楽、映画、アート、舞台、出版など幅広いジャンルを手がける立川直樹をプロデューサーに迎え、世界的に活躍し日本を代表する写真家の宮澤正明と石川・能登で活動する2名の写真家とともに能登の美しい景色と能登のいまを表現していきます。

＜企画のポイント＞

- **震災から一年、復興への歩みは始まったばかりだからこそ能登のいまを伝えたい**
- **地域の伝統文化や生業がどのように再生されていくのかを一緒に歩んでいく写真展**
- **能登や石川県とゆかりのあるプロデューサーや写真家の視点で能登の美しさを表現**

【本件に関するお問い合わせ先】PR事務局
メール：pr@cfquod.jp　担当：中川

■ 美しい能登、そして復興の歩みを伝えていく写真展

2024年元旦に起こった「写真展 能登 復興へ向けて」。震災から1年が経過し、復興への一歩を踏み出した方、一歩を踏み出すことができない方、状況はざまざまです。一方で、「美しい能登を取り戻したい」「能登の文化を失ってはいけない」という思いは、被災された方共通の望みだと思います。
震災以降、地元石川県だけでなく、タレントやスポーツ選手、アーティストなど、多くの著名人が能登の復興を呼びかけ、少しずつ支援の輪は広がっています。しかし、復興に向けて本当に大切なのはこれからです。
震災を風化させない、能登のいま、そして美しさ、力強さを伝えていく。そしてともに歩んでいく。そんな思いで立ち上がった取り組みが『写真展 能登 復興へ向けて』です。

本写真展は、被災地の復興だけでなく、震災や豪雨の前からずっと大切に守られてきた伝統文化、そして地域の生業がどのように再生を目指しているかを能登や石川県とゆかりのあるプロデューサーや写真家の視点で展示を構成。

能登の復興とともに歩む写真展『写真展 能登 復興へ向けて』にぜひご来場ください。

■ 開催概要

東京

開催期間：2025年 1月7日（火）～2月2日（日）

開催会場：東京ミッドタウン八重洲 5階「イノベーションフィールド八重洲」
東京都中央区八重洲二丁目2番1号

※ 「POTLUCK YAESU」協力のもと開催

「POTLUCK YAESU（ポットラック ヤエス）」は、東京ミッドタウン八重洲5階に設けた「イノベーションフィールド八重洲」を拠点に、地域経済で挑戦する人々が集い、つながるための「場」と「機会」を創出するプロジェクト。本プロジェクトは、地域の未来に貢献する「プロジェクトパートナー」と共に、それぞれの価値観や取り組みを広めることで、地域経済の“創発”を目指します。
https://www.potluck-yaesu.com/about/

【本件に関するお問い合わせ先】PR事務局
メール：pr@cfquod.jp　担当：中川

■ 写真展をつくり上げるプロデューサー・写真家

プロデューサー・ディレクター　**立川 直樹**

1949年生まれ。70年代の始まりから、メディアの交流をテーマに 音楽、映画、芸術、舞台など幅広いジャンルで活躍するプロデューサー／ディレクター。分野は、ロック、ジャズ、クラシック、映 画音楽、アート、舞台美術、都市開発と多岐に渡る。音楽評論 家・エッセイストとしても独自の視点で人気を集める。石川県で は、北陸新幹線金沢開業１周年記念イベントとして“ロック・スー パー・セッション”と“ギター・サミット”をプロデュースしたのをはじ め、鋤田正義写真展や泉鏡花をテーマにした“鏡花 －KYOKA －音・語り”など、数々の展覧会やイベントを手掛け、2024年3月に はDiscover Japan特別号“石川”も執筆・プロデュースした。

■ プロデューサー 立川直樹氏コメント

能登をはじめて訪れてから40数年の時が経ちます。最初は時計とは逆回りの方向で半島を一回りしました。一泊のドライブ旅行でしたが、無限の時が流れていくようでした。目に入る景色も聞こえてくる音も映画のようで半島というよりも島のように感じられる能登.....NOTOは僕にとってマジカルな魅力を持ったアイランドで毎年のように能登を訪れ、NOTO愛は深まっていきました。だから、地震のニュースを聞いた時は、近未来SF映画のように様々な記憶と情景が高速度でフラッシュバックしてきました。 そしてテレビや新聞などで目にする情景を見て思いました。写真と言う媒体を通してNOTO復興の思いが伝えられないだろうか..... そんな思いから今回、 3人の写真家の写真で、そんな思いを形にすることができました。ぜひ足を運んでもらえたら幸いです。

写真家　**宮澤 正明**

日本大学芸術学部写真学科卒業。卒業時に日本大学芸術学会奨励賞、85年には赤外線フィルムを使用した処女作「夢十夜」でニューヨークICPインフィニティアワード新人賞など数々の賞を受賞。石川県の豊かな景観や伝統に魅了され、これまでさまざまな場所で撮影を重ねてきた。中でも、能登半島の自然美、豊かな食文化、そして温かく魅力的な人々の姿をカメラに収め、その魅力を余すところなく映し出している。

写真家　**吉岡 栄一**

1986年生まれ。能登半島の風景に惹かれ、写真を撮り始める。27歳でフリーランスに転身し、石川県輪島市へ移住。ライフワークとして金沢や能登のお祭りを中心に撮影するほか、国内外でスナップ・アート写真を撮影している。パリやロンドンなどの国際的な写真コンペティションで上位入賞。2022年にスペイン・テルエルで開催されたフォトフェスティバルに招待され、唯一の日本人フォトグラファーとして参加し、能登の祭りの写真を展示。国内外で活躍の場を増やしている。

写真家　**松田 咲香**

1986年生まれ、石川県珠洲市出身・在住。2014年に東京から地元珠洲市へＵターンし、国内外をはじめ、能登の祭りや営み、風景の写真を撮影している。また、ローカル情報誌の季刊誌「能登」でもカメラマンとして活動。令和６年能登半島地震で被災し、ＨＤＤが津波で浸水。データ復旧会社の支援により、データの約６割が復旧され、その写真を使った展示を行っている。現在は、珠洲市にて交流拠点「本町ステーション」を運営中。今後は、「森のスタジオ」構想を計画している。

【本件に関するお問い合わせ先】PR事務局
メール：pr@cfquod.jp　担当：中川